

令和6年度牧之原市農業総合支援協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、牧之原台地の南東部に位置し、全耕面積 4,171ha のうち水田面積は 761ha、割合は 18%になる。現在の米の生産については、茶等との複合経営が主体となっており専業農家は減少傾向にある。また、レタス等の二毛作、スイートコーン、ネギ等の生産で水田を活用している。近年は、後継者不足や生産者の高齢化が進んでおり、農家戸数が減少傾向にある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の国内需要が減少傾向にある中、水田における農業所得向上のため、露地野菜をはじめとする高収益作物等の作付拡大が重要である。また、生産者及び作付拡大を進めていくために、より農家との連携を図っていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

レタス等の二毛作、スイートコーン、ネギ等の生産で水田の有効活用をしている。また、各生産者においては、担い手の育成を行い、後継者不足等の問題を減らしていく。

また、水田において水稻の取組がないほ場が数年以上定着していないか、畑作物のみを生産し続けている水田がないか、今後も水稻に活用される見込みがないか等点検を現地確認にて行い、点検状況を記録として残していく。また、点検結果により、生産者に畑地化支援を行っていく。

水稻と転換作物のブロックローテーション体系の構築は、本市の営農形態をふまえると実現性は低いが、関係機関と連携しながら実施の可能性について模索していく。ブロックローテーションの活用を検討するとともに畑地化支援事業の活用についても検討し、水田の活用を促していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

生産者が自らの経営判断と販売戦略に基づき、需要動向や集荷業者等の傾向を勘案しつつ、米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減少が見込まれるため、飼料用米の取組を推進していく。今後、主食用米からの転換の促進が課題となってくるため、関係機関との連携による栽培技術の向上、多収性を有する専用品種の活用により、安定した収量を確保する。また、耕畜連携の取組を推進し、地域内の資源循環体制を強化する。

イ 米粉用米

近年、食物アレルギーの原因であるグルテンを含まないことで注目され、小麦の代用品にもなることから需要及び注目度が高まっている。戦略作物助成利用、複数年契約栽培を推進し、供給体制を整え、取組面積と生産量を増加していく。

(3) 高収益作物

レタス及びスイートコーン、ネギは水田の裏作物や、茶等との複合経営の栽培作物として積極的に導入し、作付面積の維持、拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり